

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	四天王寺大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シテンノウジダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F127310108125
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	インターンシップⅠ、インターンシップⅡ
	学部・研究科等名	経営学部
	担当教職員名・役職	東野國子(講師)・富田美幸(助教)
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	97
	受入企業等数	コロナ禍のため、現在も実習中で確定せず。
	受入企業等名	<ul style="list-style-type: none"> ・あいおいニッセイ同和損保株式会社・株式会社関西マツダ ・羽曳野市立中央図書館・羽曳野市役所・藤井寺市役所 ・藤井寺市商工会・日本警備通信株式会社・吉川運輸 ・J Aグループ和歌山・株式会社鈴木自販近畿・村本建設 ・株式会社ベアフォスターホールディングス ・株式会社ワークアカデミー・株式会社キナン ・大阪石材工業株式会社・カースキャリア ・コートヤード・バイ・マリオット ・大阪シティ信用金庫・株式会社ナフコ・株式会社フジタ ・紀陽銀行・株式会社エフ・ラボ・森脇鍍金工業株式会社 ・社会福祉法人風の馬・サカイサイクル株式会社 ・株式会社アイティープランニング・株式会社ミノル ・株式会社DISCOVERY SUPPORT ・株式会社スリーエム・茨木精機株式会社 ・ビューティードア株式会社・一般財団法人大阪労働協会 ・カンメタエンジニアリング株式会社・株式会社オークボ ・株式会社てんてん・豊開発株式会社・社会福祉法人コスモス ・株式会社エムジェイテック・株式会社YSK ・株式会社ワーキングビー・株式会社三晃鍍金工業 など
	インターンシップの分類	8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	①グループワークによる企業・業界の市場調査による研究成果発表会の実施。②地域イベントの企画・立案内容についてのプレゼンテーションを実施③就業体験中の業務従事で発生する具体的な問題解決能力育成のためのワークを実施。

要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している
		4.当該インターンシップは、必修科目として実施している
		7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
		8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年	
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位	
2-5.上記回答内容に関する詳細	本科目は、3年次夏学期に必修科目として開講している。15回の授業において事前学習を行ったうえで、夏季休暇中に5日間以上の就業体験を実施している。事前学習では、業界研究、ビジネスマナー、コミュニケーション能力育成等をはかり、学生の主体性に基づき、より高い就業意識と職業観の育成や専門分野への理解を促すことを目的としている。さらに事後学習による振り返りを実施し、職業観の育成にも力を入れている。 (但し今年度はコロナの影響により一部冬学期にも実施)	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている ※今年度はコロナの影響で実習がまだ終了していない学生がいるが、全員が実習を終了した時点で、報告会などを実施する予定である。
3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている		
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容		
3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している	
	3.その他	

	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	インターンシップ中に、何か不明な点があれば担当教員に連絡を入れ、日々の就業体験状況や業務内容について相談することを義務づけている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	15回の事前学習では、業界研究、ビジネスマナー、学生が事前訪問をするための電話対応の指導と共に訪問時の注意事項等の指導、インターンシップ日誌等についての書き方指導など、企業での就業体験に必要な内容については細かく指導している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	礼状作成指導、レポートの提出、インターンシップ日誌提出時に個別面談の実施、人数が少ないため、個別に面談を実施しながら事後学習を行ったうえ、学部内での報告会（特に学生向け）を実施。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	担当教員による就業先への訪問で、インターンシップ担当者と就業体験内容の調整と共に、学生から日々連絡が入る就業体験内容を確認して、企業との調整を図りながら、就業体験が学生の職業観の育成となるように進めている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
4-3.上記回答内容に関する詳細	アンケート調査による状況把握を行ったうえで、学生のインターンシップ前後の変容を測定するため学修評価票による社会人基礎力の把握や、企業からの評価票による確認、ならびにルーブリックを使用した基本的ビジネスマナーやコミュニケーション力等の変容を測定するためのテストを複数回実施し、客観的データの結果に基づき、学生への自己理解を促している。	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	事前学習15日とインターンシップ5日間の計20日間実施
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前学習15日とインターンシップ5日間の計20日間実施
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	本年度に関しては相手先の実習期間の短縮などがあり、数名の学生が複数企業で5日間以上の実習を行った。
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	5日間（複数個所で合計5日間） 7日間 2 ヶ所 10日間 2 ヶ所

要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している		
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容		
6-3.上記回答内容に関する詳細	事前にインターンシップの意義や目的を受け入れ企業にご理解いただいた上で、受け入れ人数や時期等についてプログラムの設計段階から参画いただき、調整を行っている。また、インターンシップ中や終了後にも受け入れ企業担当者と担当教員が面談を行い、受け入れに係る情報交換を実施することで、インターンシップに関わる負担感の軽減に努めている。さらに次年度に向けたプログラム設計について意見交換も行っている。	
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/	
問い合わせ先	大学等名	四天王寺大学
	担当部署名	経営学部
	担当者役職名	インターンシップ担当教員
	担当者氏名	東野國子・富田美幸
	電話番号	072-956-3181
	メールアドレス	m-tomita@shitennoji.ac.jp khigashi@shitennoji.ac.jp